



NET WORK

会員会社紹介 Vol.49

車体製造のパイオニア 職人氣質のこだわりを商品に反映

JR名古屋駅から地下鉄東山線に乗り換え6分、中村公園駅に到着する。階段を上がり地上にでると大鳥居が突如現れ、圧倒される。歴史ある町と感じつつ尾張車体へと向かった。

取材 / (社)日本自動車車体工業会 事務局長 橋本 茂

特徴 沿革

1934年の創業以来、70年以上にわたり自動車車体製作のパイオニアとして堅実に歩み続けて来た尾張車体工業(株)。その歴史は、創世期、形成期、熟成期の3つに分けられるという。

初代社長であった酒井作造氏は、1942年に社長に就任、1944年には、商号を現在のものに変更。終戦となった1945年から1960年が創成期であり、会社の基盤を築く時期となった。

この頃は、各業界の宣伝カー製作が主体で作業は全てがハンドワークであり、現在の職人氣質の礎にもなっている。ピヤ樽型、ハムの形、歯磨き粉のチューブなど、復刻版のカタログを見ると、実に多彩な形状である。

その後、宣伝カーだけでなく、各種検診車、医療車、移送車などの特種車を手がけるようになった。そして1960年、モータリゼーションの波による輸送業界の発展に伴い、「尾張車体の車両運搬車」の製作を開始する。これが後にトヨタ自動車にも認められる小型車両運搬車へと発展する。1985年までの25年間に、車両運搬車、移送車などいろいろな車種を手がけてきたが、やがて車両運搬車と検診車などが生産の主軸として成長し、この25年間に形成期と言える。

そして1985年、小型車両運搬車がトヨタ自動車のTECS車として採用され、生産が増加した。「安全輸送、迅速、省人化」をコンセプトに1台積、2台積、3台積を生産。その生産台

数は累計1万台におよんでいる。また、トヨタ自動車との取引により品質に対する取組みが大幅に強化出来たとのことであった。

熟成期となった現在、2005年には四代目社長に酒井紀孝氏が就任し、医療車、積載車共にますます多様化し、時代のニーズに応えるべく新しい感覚を取り入れながら、新商品開発に全社を挙げて力をいれているという。



尾張車体工業 株式会社

DATA

本社
愛知県名古屋市中村区
稲上町1-24
TEL 052-412-1201
FAX 052-412-1206
資本金 4,400万円
従業員 約80名
事業所規模
敷地 約 6,412㎡
工場 4,133㎡
車工会加入
1948年(トラック部会・特種部会)



代表取締役社長
酒井 紀孝

製品

御社で製作している主力製品についてお聞かせ下さい

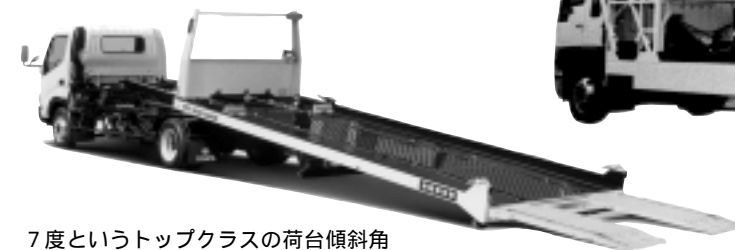
酒井社長 現在の主力製品は、大きく分けて医療検診車、特種車、車両運搬車、この3車種です。

特に車両運搬車は、「安全、迅速、省力化」をコンセプトに掲げ、機能を徹底追及した自信作です。国内だけでなく、イエメン、アルジェリアなど海外でも活躍しています。

以前造られていた宣伝カーは、当時の週刊誌に掲載されるほど話題になったと伺いましたが、どんな種類があったのでしょうか

当時は、広告宣伝するにもテレビコマーシャルもあまりない頃でした。商品イメージを具現化し、顧客に伝えるのに、宣伝カーはうってつけだったので。

スライドローダー・ スーパーローアングル



7度というトップクラスの荷台傾斜角を実現。更に道板からローアングルスロープにより、ロードクリアランスの小さな車両の積載・運搬が安全・スムーズに行える



製作中の馬匹車。ヘアシャシー上に鉄骨でキャブ部分を含め新設



「叩いて、触って」を何度も繰り返し、部品を造り上げる

ピヤ樽、ハムなどを車両にかたどったものや、きれいなイラストのついたものなど、さまざまでした。そのどれもが、当時の従業員がすべて手作業で造り上げたものです。これらの車両は、産業界の発展に寄与していると思っています。

御社の方針、今後の抱負などをお聞かせ下さい

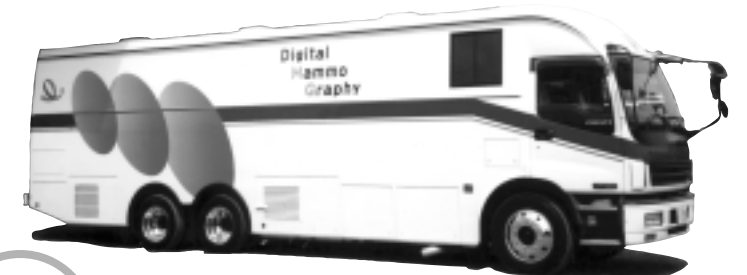
私は就任以来、「創意工夫」をモットーにしてきました。ひとりひとりがこの「創意工夫」を心がけていけば、必ずお客様に満足いただける商品が出来ると思っています。

8t車4~5台積 車両運搬車

大型車の普及型車両運搬車。乗用車からRV車まで積荷組み合わせが可能。2階フロアの昇降には電動式または油圧方式が採用されている



乳腺検診車 (マンモグラフィ)



人

御社の従業員の
特徴は

長年にわたり培ってきた技能、技術は、職人氣質とも言えます。商品に対するこだわりと高い技術で「尾張の仕事は堅い」と言われてきたのです。キャリアカーが全国区になったのも、この職人氣質によるところは大きいと思います。

次世代教育について、御社ではどうされていますか
新しい感覚と後継者の育成が今後

それには今ある技術に満足するのではなく、さらに上を目指し、今以上の多能工集団を目指したいと思っています。

時代を彩った宣伝カー



ピヤ樽型(上)とハム型(下)
(どちらもRK型普通四輪宣伝車)